

目指す学校像	学校・家庭・地域のコミュニケーションをもとに、児童一人ひとりの学力や体力を向上させ豊かな心を育むことができる学校
--------	--

重点目標	1 学校課題研修を通しての基礎基本の徹底とPISA型読解力の向上 2 いじめ未解決ゼロと安全・安心な環境づくりの推進 3 コミュニティ・スクールの推進・充実 4 Well-being (一人ひとりの多様な幸せ) の実現に必要な指導力の育成
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○読解力向上教育の指導の必要性について、教員間で共通認識を図っている。 ○指導者を招聘しての研究授業と協議会を今年度も計画している。 ○NIE (新聞を活用した教育) の推進校としての研究の成果をまとめるよう進めていく。 (課題) ○読解力向上のために育てていく能力について検討の必要がある。 ○NIE を活用したはなまるタイムの実施について検討の必要がある。 ○プロジェクターの有効活用を一層進めるなどのICT 機器を使った授業の一層の工夫の必要がある。	・PISA 型読解力の向上 ①学校課題研修の国語科で年間4本の授業研究会を実施し、協議会での成果と課題を追究し日々の授業に生かす。 ②読解力向上のために育てていく能力の系統化を行う。 ③実態調査アンケートの作成	①学校の実態調査アンケートにおいて、児童の「文章や資料から必要な情報を取り出すことができる」88%、「今まで習ったことや生活経験などと結びつけて、自分の考えをもつことができる」86%「本や文章を読むことが好き」83%となったか。	①指導主事を招聘した授業研究会を3回実施し、協議会で成果と課題を追究することができた。 ②低・中・高学年ごとに読解力向上のために育てていく能力の系統化を行うことができた。 ③「文章や資料から必要な情報を取り出すことができる」71% 「今まで習ったことや生活経験などと結びつけて、自分の考えをもつことができる」90%	A	読解力向上教育は今年度で一区切りをつける。 次年度は、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を研究領域として、校内研修を進める。 教員の指導力向上のために、指導者を招聘しての研究授業と協議会を引き続き実施する。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 ・文章を読解する力が昔より低下している感じがするので、よい取組だと思う。 ・教員のスキルアップのための研究授業や協議会はいへん重要なので、今後も継続してほしい。 ・NIE を取り入れたことで、社会のしくみが分かってくると思う。 ・国語に限らず、他の教科でも授業が楽しいと思える児童を多くしてほしい。
		・NIE を活用したはなまるタイムの実施 ①NIE (新聞を活用した教育) の推進校として新聞を授業の中に取り入れる。 ②NIE を活用したはなまるタイムの計画を立てる。	①3年生以上で年間1回以上、新聞を活用した授業を行うことができたか。 ②NIE を活用したはなまるタイムの計画が立てることができたか。	①3年生以上で年間1回以上、新聞を活用した授業を行うことができた。 ①NIE で講師を招聘し、具体的な実践方法を学ぶことができた。 ②NIE を活用したはなまるタイムの計画を立てることができた。	A	NIE 推進校としての取組で行った実践についてまとめをしたり、データを保存したりして、次年度以降も活用できるようにしておく。	
2	(現状) ○いじめ解決にむけ、積極的にいじめの認知を行っている。いじめ対策委員会等を活用し、いじめ問題に対応している。 ○いじめの対応については「いじめに係る対応」の手引きをもとに組織的に行っている。 ○安全点検では毎月2、3件の不良個所が見つかっている。 (課題) ○保護者からの相談でいじめが発覚することがあり、いじめの解決に時間を要する案件も見られた。 ○安全点検で見つかった修繕箇所について、予算の兼ね合いもあり、優先順位をつける必要がある。 ○登下校時のマナーの継続的な指導が必要である。	・さいたま SDG s 教育の充実 (主に人権教育) ①心と生活のアンケート・本校独自アンケートを計5回実施し結果に基づいて迅速に対応する。 ②いじめ防止委員会での記録と全教員の共通理解を図る。 ③「嫌な気持ち、悲しい気持ちで帰らない」を呼びかけ、いじめの早期発見、解決を図る。	①学校評価に関わる児童アンケートにおいて、「いじめ」なく、友達と仲よく過ごしていると回答する児童の割合が95%以上となったか。 ②いじめの解決が100%となったか。年度をまたぐ案件は「見守り中」になったか。	①「いじめ」なく、友達と仲よく過ごしていると回答する児童の割合95% ②12月末でいじめの解決は88%、見守り中が5件これは市の方針で3か月間の見守りが必要なためである。年度末にいじめの解決が100%となるようにする。 ③職集や職員会議の場を利用して、少なくとも学期に1回は、教職員に徹底を行った。	A	いじめ防止基本方針に沿って、組織的にいじめの対応を行う。いじめに関係するすべての児童の保護者には連絡し、家庭での指導も依頼する。 生徒指導委員会やいじめ対策委員会を通して引き続き組織としていじめに対応していく。	・いじめに対する早期発見・早期対応・早期解決を今後もお願いしたい。 ・いじめはなくなるが対応できていない。 ・いじめの解決方法としてアンケートだけの判断ではなく、見守ってほしい。 ・悲しい思いをする子どもがいなくなるよう、引き続き早期発見やていねいな対応をお願いします。 ・安全指導は地域と協力して指導できている。
		・安全指導と安心安全な環境整備の充実 ①学期に1、2回の一斉下校、生活朝会の折に、全国交通安全指導を、年間3回の避難訓練を、学期に1回以上の不審者対応指導をそれぞれ実施する。 ②安全点検を月1回実施し、点検状況を管理職が把握し対応する。校庭の遊具は毎日点検する。	①学校評価に関わる児童アンケート、保護者アンケートにおいて関連する項目の肯定的な回答の割合が94%以上となったか。	保護者の「学校は事故防止への配慮がなされている」の肯定的な回答は88% 児童の「交通ルールを守って生活している」の肯定的な回答は97%	A	通学班の班長指導、生活朝会時の交通安全に関する指導、給食時に校内放送を使った安全指導など、引き続き児童への安全指導に努める。 安全点検を確実に実施し、優先順位をつけて修繕を実施していく。	
3	(現状) ○学校運営協議会は参集しての会議を行い、情報共有を図っていく計画である。 ○授業参観は計画どおり年間4回、7月と12月の懇談会はYouTube で発信し、学校の様子を提供する予定である。 (課題) ○保護者・地域への連絡が遅れたり、その後のアフターフォローが不十分であったりする事案も見られた。 ○地域の方は学校に対して協力的であるが、さらに一層の協力体制を構築していく必要がある。	・迅速・丁寧な情報発信 ①その日起こったことはその日のうちに保護者に連絡し、課題解決に向け保護者と連携する。 ②課題が解決した後の保護者への連絡を実施する。	①学校自己評価におけるアンケートで、学校は保護者の方へ、親切・迅速・丁寧な対応していると回答する保護者の割合が90%以上となったか。	学校は保護者の方へ、親切・迅速・丁寧な対応していると回答する保護者の割合が89%	A	迅速で誠実な対応を心がける。 保護者へはどのような連絡でも必ず、その日のうちに行う。	・あいさつについては、まだできていない保護者もいるが、引き続き、地域と協力している。 ・運営協議会が行われることにより、地域との連携が図られていると思う。 ・学校運営協議会が地域の関係機関として、情報共有がさらにできたらと思います。 ・地域の行事に積極的に参加してほしい。
		・保護者、地域とのより一層の学校への協力 ①学校の課題、学校を取り巻く地域の課題について自分事として課題解決に取り組んでもらうために、学校運営協議会の熟議を少人数で実施する。	①学校運営協議会の熟議のテーマである「あいさつ」についての学校運営協議会委員による評価において、「そう思う」と回答する割合が80%以上となったか。	「あいさつ」についての学校運営協議会委員による評価において、「そう思う」と回答した割合は77%	A	あいさつについては、次年度も学校・PTA (家庭) ・地域で連携して進めていく。	
4	(現状) ○ICT の活用について、学年のICT 担当者 (エバンジェリスト) を中心に研修を進めている。 ○ICT の利用度は市の平均を上回っている。 ○「じ・し・や・く」でつながる学びについても研修を進める予定である。 (課題) ○教員のICT リテラシーをさらに高める必要がある。 ○経験の浅い教員が多く、若い教員を中心にOJT の研修の必要がある。	・学校課題研修の充実を図り実践的な指導力の向上 ①4回の授業研究会を実施し、学年として学校課題に取り組む。 ②「じ・し・や・く」でつながる学びについても一斉研修会を中心に授業実践をしていく。 ③情報端末の学年研修会をエバンジェリストが中心に週1回実施する。 ④管理職による週2回の授業参観を実施し、その後の個別指導を行う。	①学校評価に関わる教職員アンケートにおいて指導法の工夫や改善が行われていると回答する教職員の割合が91%以上となったか。 ②学校課題研修を通して、授業力の向上に生かすことができたと回答する教職員の割合が80%以上となったか。	①指導主事を招聘した授業研究会を3回実施することができた。 ①指導法の工夫や改善が行われていると回答する教職員の割合が98% ②学校課題研修を通して、授業力の向上に生かすことができたと回答する教職員の割合96%	A	研究授業で学んだことや指導者から指導を受けたことなどを自分の授業で実践するよう努める。 今年度途中からOJT 研修を実施した。 次年度も継続していく。	・タブレットの使用方法について丁寧に指導してもらっている。 ・IT リテラシーを高める研修が必要だと思う。 ・「じ・し・や・く」のキーワードは分かりやすく、目標を立てる目安になると感じた。 ・OJT 研修の推進をしてほしい。